

令和8年度

**「運営に関する計画」**

**【年度初め】**

**大阪市立野里小学校**

校長

令和8年4月

1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

○教職員の協働および学級・学年・学校経営の安定

<p>&lt;校訓&gt;</p> <p>ただしく なかよく たくましく</p>	<p>&lt;めざす子ども像&gt;</p> <p>○ 一生懸命考える子 ○ 心豊かな子 ○ 元気な子 ○ 仲間を大切にする子 ○ 気持ちよくあいさつする子</p>	<p>&lt;学校教育目標&gt;</p> <p>豊かな人間性を育み、正しく 仲よくたくましく生きぬく子を 育てる</p>
--	--	---

- ・ 単学級化が進み、一人一人の校務分掌が増加している。また、ここ数年は病休や退職が続き、途中配置が厳しい状況である。教職員の心理的安全性が確保された中で貢献感とやりがいを感じられる職場風土を醸成するためには「教職員の資質向上・働き方改革の推進」が最重要課題である。

○保護者・地域とのよりよい連携

- ・ 多くの保護者は学校に協力的であるが、一部にカスタマーハラスメントを感じさせる言動がある。対応が困難な事案については、周囲の保護者や地域のご理解とご協力が不可欠である。

**【安全・安心な教育の推進】**

本校の実態から、「いじめへの対応」および「インクルーシブ教育の推進」を最優先に取り組んでいく。

令和7年度の学力経年調査の児童質問紙（3～6年）で「学校に行くのは楽しいと思いますか」に「そう思う」との回答が、37.5～53.8%（R3:28.1～50.8%）であった。また、「自分には良いところがあると思いますか」に「そう思う」との回答は40.0～50.0%（R3:26.3～42.9%）であった。

学級経営の力量向上に向けた自主的な研修やたてわり活動を中心とする異年齢集団活動の充実により、児童の集団生活におけるルールやマナーを意識した学校生活を過ごす態度の育成を図っている。一方、「働き方改革」に伴う勤務時間については、教職員の実態を考慮しつつ教育活動の充実をめざして効率的かつ効果的に運用していく必要がある。

全教職員でカリキュラム・マネジメントを意識して教育課程を作成し、教員の協働性を発揮できる組織づくりを進めていく。また、児童虐待やネグレクト、ヤングケアラー等の課題に対して、関係機関との連携を密にしながら保護者や地域の協力を求めていく。

さらに、「いじめ・問題行動・不登校」対策では、組織的対応・即時解決に努め、関係機関連携を行っている。しかし、家庭との連携が非常に困難なため、不登校傾向の児童が増加しつつある。教員全体で児童理解や情報共有を定期的に行うと同時に、自尊感情を高める学級・学校づくりに努めていく。

そして、安全・安心な学級づくりの基盤として、コミュニケーションの力を伸ばせるよう「国語科」を研究の柱として指導力の向上をめざす。その際、学級経営を進める上でインクルーシブ教育の視点を持ち、児童理解を深めながら児童の実態に合った指導や支援を継続していくことが大切であるとする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

本校では、「主体的・対話的で深い学びの推進」および「体力・運動能力向上のための取組の推進」を最優先に取り組んでいく。

令和7年度の学力経年調査の児童質問紙（3～6年）で「学校が休みの日にインターネットを使って動画やゲーム SNS をしている時間」に「4時間以上」との回答が27.5～44.2%であった。特に月曜日には欠

席や遅刻の児童数が多く、授業に参加できていないことが学力・体力の低下に影響を及ぼしている。

また、児童数に伴う学級や教員の数は減少しており、指導者の授業力向上に関する研鑽や児童理解等に対する知識や経験の差は大きな課題となっている。そこで、より分かりやすい授業をめざして教員自身が教材研究に取り組む時間を確保することで児童が主体的に学ぶ授業構成を工夫していく必要がある。健康・体力面については、毎日の健康観察を念入りに実施している。規則正しい生活習慣の確立に向けては、家庭との連携のもと、早寝・早起きの声掛けや毎日の食の指導を通して、健康な体づくりへの意識を高めている。特に睡眠やスマホ・ゲームの時間等については家庭の協力が不可欠なので家庭への啓発を継続していく。

### 【学びを支える教育環境の充実】

本校では「ICTを活用した教育の推進」および「教員の資質向上・人材の確保」を最優先に取り組む。

ICTの活用で個別最適化を意識した学習が進んでいる。授業の中で対話的な学びと適切に組み合わせて学習することで学習内容の定着が期待できる。そのためには、教員同士で研鑽を深め、資質向上やICT活用への学びにつながる研修を計画的に進めていく。

ただ、各教員の家庭状況や技能面で個人差があるため、教員の資質・技能の向上を図る必要がある。教職員の働き方改革については、校務の見直しや精選を図ることで効率化に努め、子どもたち一人一人に向き合う時間を確保できる環境を整えていく。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

中期① 令和11年度の学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

(基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)

中期② 令和11年度の学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

(基本的な方向2 豊かな心の育成)

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

中期① 令和11年度全国学力・学習状況調査における「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気が付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

中期② 令和11年度の小学校学力経年調査における「規則正しい生活(「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、おなじくらいの時刻に起きること)」が大切だと思う」に対して肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。

(基本的な方向5 健やかな体の育成)

#### 【学びを支える教育環境の充実】

中期① 令和11年度末の学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を80%以上にする。(基本的な方向6 教育DXの推進)

中期② 令和11年度末までに毎月の超過勤務時間が30時間以内の教員を70%以上にする

(基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)

## 年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

年度① 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。  
(基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)

年度② 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。  
(基本的な方向2 豊かな心の育成)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度① 小学校学力経年調査における「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気が付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を82%以上にする。(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

年度② 小学校学力経年調査における「規則正しい生活(「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、おなじくらいの時刻に起きること」)が大切だと思う」に対して肯定的に答える児童の割合を75%以上にする。  
(基本的な方向5 健やかな体の育成)

### 【学びを支える教育環境の充実】

年度① 学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を65%以上にする。(基本的な方向6 教育DXの推進)

年度② 時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員を0にする。  
(基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)

#### 4 令和8年度の自己評価結果の総括

大阪市立野里小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>年度①</b> 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。 (基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)</p> <p><b>年度②</b> 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 (基本的な方向2 豊かな心の育成)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】 生活指導連絡会などにおいて、児童理解・保護者との連携について共通理解しながら対応する。</p> <p>指標 ・ 校内外で発生した生活指導上の問題点について、生活指導連絡会を月1回以上実施してその対応を協議する。問題が発生した際には、状況をすぐに全教職員で共通理解できるよう、随時SKIP連絡掲示板や「いいとこみつけ」を活用して、安心・安全な学校づくりに努める。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 自己有用感を高め、望ましい人間関係を構築する。また、話し合い活動や体験学習を積み重ねることで、コミュニケーション能力を身につけ、様々な友だちと協力できる体制を推進する。</p> <p>指標 ・ たてわり班活動（たてわり班での清掃や集会等を含む）を中心とした異年齢交流を学期に1回以上、全校やペア学年で実施し、児童のコミュニケーション能力を高める。 ・ 代表委員会を中心に「あいさつ運動」を週1回以上行い、気持ちのよいあいさつがすすんでできる児童の育成を図る。学校教育アンケートにおける「すすんであいさつができます」と最も肯定的に答える児童の割合を60%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①	
取組内容②	
今後の改善点	
取組内容①	
取組内容②	

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>年度①</b> 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気が付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を82%以上にする。 （基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上）</p> <p><b>年度②</b> 小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、おなじくらいの時刻に起きること）」が大切だと思う」に対して肯定的に答える児童の割合を75%以上にする。 （基本的な方向5 健やかな体の育成）</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践に取り組み、指導力向上を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語科の授業研究を伴う校内研修を年間6回以上行い、日々の学習指導に生かす。</li> </ul>	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>国語科において、自分の考えを深めたり、広げたりする話し合い活動を推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度の学校教育アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を82%以上にする。</li> </ul>	
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>自分の健康に関心を持ち、規則正しい生活習慣の確立に努めるとともに体育科の授業において計画的に体力向上を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度の学校教育アンケートにおいて「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、おなじくらいの時刻に起きること）」が大切だと思う」に対して最も肯定的に答える児童の割合を30%以上にする。</li> <li>なわとび、かけ足などの運動に関する週間を通期で3回以上行う。</li> <li>規則正しい生活習慣を身につけるよう健康生活に関する強調週間を学期に1回実施する。</li> </ul>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>取組内容②</p> <p>取組内容③</p>
今後の改善点
<p>取組内容①</p> <p>取組内容②</p> <p>取組内容③</p>

大阪市立野里小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>年度①</b> 学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を65%以上にする。（基本的な方向6 教育DXの推進）</p> <p><b>年度②</b> 時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員を0にする。（基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり）</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① <b>【基本的な方向6 教育DXの推進】</b> 学習者用端末を活用した実践に取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度の学校教育アンケートにおける「日々の学習の中で、学習者用端末(パソコン)を活用して学習していますか」の項目について、最も肯定的な回答をする児童の割合を45%以上にする。</li> </ul>	
<p>取組内容② <b>【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b> ゆとりの日を週1回は設定する。また、学校閉庁日について、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業期間では1日以上設定する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員を0にする。</li> </ul>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①	
取組内容②	
今後の改善点	
取組内容①	
取組内容②	